

ひまねき

警固屋学園通信
第63号
27. 7. 10
発行

新生「殉国の塔慰霊祭」を終えて

六月二十二日に、鍋山第一公園で殉国の塔慰霊祭があり、警固屋学園八年生二十二名も関係者の方々とともに参加しました。

八年生では、総合的な学習の時間に戦時中の生活や呉工廠への空襲の様子・また殉国の塔ができるまでの経緯などを地域の方から聞き、学習をしてきました。



新生「殉国の塔慰霊祭」で述べた「慰霊の言葉」は、その学習の中で学んだ内容をまとめたものです。戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいかなければならないこと、世界の国々と理解を深め、平和な世界を築いていくことを述べました。



また、千羽鶴・菊の花を捧げ、哀悼の意を表しました。実際に慰霊祭に参加してみて、参列されている関係者の方々が、高齢であることを実感し、若い世代である自分たちがこれから担う役割について考えた生徒たちでした。

◇ 慰霊祭に参加して、ご遺族の方や地域の方に会いました。その方達の顔を見てみると、とても悲しんでおられることが伝わりました。だから、今の私たちや後の世の人達にとっても、慰霊祭は今後戦争をしないようにするために大切なことだと心から思いました。「慰霊の言葉」の中でも言いましたが、殉国の塔のこと、戦争の恐ろしさを後世に伝え続け、今後は外国との争いを起こさないように努力していきたいと思えます。

邦楽鑑賞会〜警固屋中学校〜

警固屋中学校では、六月十八日に呉三曲会の方々が来校され、箏や尺八による邦楽鑑賞会がありました。

始めに「春の海」や「警固屋中学校校歌」などの曲が演奏されました。日本の伝統的な楽器の独特な音色に聞き入りました。また、生徒が実際に箏や尺八の音を出す体験もさせてもらいました。



- ◇ 慰霊祭 伝え続ける 後の世に
- ◇ 塔の前 祈りを込めて 花捧ぐ
- ◇ これからも 平和の心を 忘れない
- ◇ 慰霊祭 命の尊さ 考えた
- ◇ 語り継ぎ 世界平和を 守り抜く
(八年生)

PTA教育講演会 落語 ジャンボ衣笠さんをお迎えして

六月十四日に日曜参観日・PTA教育講演会が行われました。講演会では、落語家のジャンボ衣笠さんとその弟子のジャンボ亭小目さんが来られました。落語独特の話し方や動きなどの説明後、小中学生の体験コーナー・ジャンボ亭小目さんの落語がありました。



代表で五人の児童・生徒が舞台上上がり、「そばの食べ方」を教えてもらいました。扇子を箆に見立て、汁をすすする音を立てながらの演技に会場から拍手が起りました。ジャンボ衣笠さんの落語は、人間が虎に扮する独特の動きなどをされ、落語を実際に見るのは初めてという児童生徒が、興味深く見入っていました。日本の古典芸能に触れることができた貴重な体験となりました。

中学生の感想

◇ 今日五時間目に教育講演会がありました。落語を見ました。まずは落語について教えてもらい、その後、弟子の小目さんの落語を見ました。中学二年生の同級生にはみえなくらいすごくて、とても面白かったです。(八年生)

小学生の感想

◇ うくごのたいけん、そばの食べ方を三年生とかがやっていたのが、とてもおもしろかったです。(二年生)

◇ ほくは今日落語を見ました。一番おもしろかったのは、「つくる」の物語でした。一番おもしろかったシーンは、オスの鶴が松の木に降りるとき、まちがって「つくる」と言ってしまう、メスの鶴の時にわからなくなってしまう、泣いてしまっただとところです。もう一回聞きたいです。(五年生)

ホッと・ハート・メモ

六月二十五日木曜日の午後、小学校で「フラワーアレンジメント教室」がありました。

今年度は、中学校の保護者の皆様にも声をかけたところ、小中合わせて二十三名の方が参加されました。これも小中一貫ならではのですね。

初めて経験した方もいらつしやいましたが、皆さんが楽しそうに創られ、それぞれすてきな作品に仕上がりました。満足されていました。

「また来年も作りたい。」という感想も多く出ていました。

お世話していただいた役員の皆様、ありがとうございます。



《編集後記》

七月に入りました。日に日に夏らしい暑さになり、子どもたちの気持ちは、すでに夏休みに向かっています。夏といえは、海水浴や花火大会ですね。大人も楽しみましょう。

ご意見・ご感想は、警固屋小学校・中学校にお寄せください。窓口は各教頭が担当いたします。